

2023年度 問題分析と学習アドバイス

<一般入試> 「国語」

【2023年度の問題分析】 <一般入試>

大問2題構成で、いずれも現代文（近代以降の文章）による出題となっている。解答形式は選択式（マーク方式）で、すべて4肢の中から正解1肢を選ぶ形式であった。試験時間は60分。

大問一は、山崎正和『日本文化と個人主義』からの出題である。山崎正和の文章は入試問題ではよく出題されているが、本文は、固定観念や先入観によって社会や文化をとらえることの危険性について論じたもので、大学入試問題に頻出のテーマである。文字数は約2,700字。設問数は8つ、枝問も含めた解答数は17である。設問の内訳は、漢字が1問3答、接続語の空欄補充が1問3答、語句の空欄補充が2問7答、傍線部の内容説明が2問2答、本文の内容正誤問題が1問1答、本文にタイトルをつける問題が1問1答であった。難易度は標準レベルだが、紛らわしい問題もあり、意外なところでミスを犯しやすいので注意が必要である。

大問二は、外山滋比古『「忘れる」力』からの出題である。外山滋比古は、最近こそ出題は減っているものの、かつては入試頻出の筆者であった。本文は、どのような姿勢で論文を書くことが独創的な価値を持ったものになるかということについて述べたものであるが、自分で仮説を立て、自分の視点で物事を考察せよ、という主張はよく見られるテーマである。文字数は約3,100字。設問数は12、枝問も含めた解答数は15となっている。設問の内訳は、漢字（傍線部と同じ漢字を選ぶ）が1問4答、語句の空欄補充が4問4答（そのうち慣用句の問題が1問1答）、ひとまとまりの表現の空欄補充が2問2答、諺の問題（傍線部と同じ意味の諺を選ぶ）が1問1答、傍線部の内容・理由説明が3問3答、本文の内容正誤問題（合致しないものを選ぶ）が1問1答であった。本文はやや古めかしい表現も見られ、また設問の一部に紛らわしいものがあるものの、全体としては標準レベルの問題である。

【学習アドバイス】 <一般入試>

●日頃から精読を心がけよう。

上で述べたように、ほとんどが標準的な問題であるため、普段から標準的なレベルの入試問題を問題集などで繰り返し解いておけば対応は可能である。ただ、標準的な問題ということは、他の受験生も高い得点が予想できるということなので、取りこぼしは禁物である。設問の中には迷うものもあり、そこでしっかり得点できるかどうか合否の分かれ道になる。読みやすい文章だからといってサッと読みとばすのではなく、書かれていること、書かれていないことをきちんと理解して読み進める必要がある。迷わされる問題では、よく読めば本文には書かれていないことがわかるが、サッと読むだけで解いている受験生には、なんとなく書かれていそうに思える紛らわしい選択肢が用意されている。出題者は平易な文章をどこまでしっかり読み取っているかを試しているわけだから、普段から精読を心がけ、問題文をよく読み、選択肢を慎重に吟味する勉強法が求められる。たとえば、まず制限時間以内にひととおり問題を解き（この段階ではまだ答え合わせをしない）、次にじっくりと読んで解き直し、最初の答えが間違っているとと思ったら修正をし、最後に答え合わせをするというのも一つの勉強法である。これを繰り返していくうちに、しっかりと問題文を読むことができるようになり、二度目の解き直しで修正する箇所も減り、得点も上がっていくはずである。

●語彙力を身につけよう。

本学の現代文の特徴の一つには、語句や熟語、慣用句の出題が多いということが挙げられる。これらの知識は簡単には身につかないので、普段から辞書を引いて言葉の意味を確認するように心がけてほしい。また、語句や熟語、慣用句を集めた問題集を繰り返し解くことも必要である。本文の読解と異なり、語句や熟語、慣用句は、知っていれば解けるものであり、普段の地道な練習が得点につながる。また、語彙力の向上は、本文そのものを正確に読むうえでも必要なことである。実際、語彙力の向上にともなって国語の得点が上昇するということは、受験生の誰もが実感することである。1点を争う入試では、漢字や語句、慣用句での失点はとても痛い。ぜひとも語彙力の向上には力を入れてほしい。

●考えながら読むようにしましょう。

空欄補充の問題も本学ではよく出題される。空欄補充は、空欄の前後を読むだけで解けるものではない。本文に何が書いてあるか、ということだけではなく、本文から導かれるであろう内容を「考え」ながら読まないで正解にたどり着けない場合が多い。何が書いてあるかということだけではなく、そこから筆者の主張の、いわば境界線とでもいべきものを「考える」必要が出てくるということだ。一部に紛らわしい問題や悩む問題が出題されるというのは上で述べたとおりだが、そういう問題も、それぞれの選択肢が筆者の主張の境界線に収まるかどうかを「考えさせる」問題だと言ってよい。こうした問題に対処するためには、筆者の主張が、どこまでの意味を持っているのか、どこからは外れてしまうのか、その境界線を考えながら読むということを心がけたい。精読を心がけ、語彙力を向上させ、考えながら読む癖をつけられれば、現代文は怖いものなしになるはずである。

一、次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

ひと昔まえ、眼鏡をかけカメラを肩にして、猫背の観光客を見たら日本人だと思え、という浅^①バクな冗談が流れたことがあった。演説や挨拶をするとき、アメリカ人はまずジョークで始めるが、日本人はおわびと弁解で始めるというのも、言いふるされた決まり文句のひとつだろう。西洋の文化は罪を基盤とした文化だが、日本人の行動の規範は他人にたいする恥の感覚であるというのも、もう長く語り継がれてきた日本人への先入見である。わけのわからない微笑を浮かべて不気味な国民だという非難から、とかく A でヒステリカルに行動するという悪口にいたるまで、過去百年、さまざまなタイプのレッテルが日本人と日本文化に張られ続けてきた。

こうしたレッテルは、たしかにある程度、日本人の現実を言い当ててはいるものの、たいていは事実の一面が ② 張られているのは、いうまでもない。しかも困ったことに、そうした事実が変わったのにも、イメージはひとつの固定観念として、ひとり歩きをすることが多い。どうやら、人間には誰しも他国の文化や他民族の民族性について、安易な固定観念を抱いて安心する癖があるらしい。日本人についてはばかりではなく、世界のさまざまな国民や民族のあいだで、互いにエスニック・ジョークというレッテル張りを楽しまれてきた。ユダヤ人は欲張りであり、ポーランド人はお人よしであり、イタリア人はいつも女性を口説いているし、ドイツ人は数字と規則しか信じないなどというのは、その B なものだろう。

(略)

けだし、一般に他人に固定観念のレッテルを張り、その人の性格や行動を決まり文句で決めつけると、われわれの頭のなかは明快になり、心が楽になるのは事実である。現実が複雑であったり、世界がとらえどころがないと、われわれは不安になる。とりわけ、物事を精密に考えることの苦手な人たちは、とかく現象の一面だけを見ることで思考を中断しようとする。蛇は地中に潜るものだし、鳥は空を飛ぶものだ。そう思い込んでいれば、われわれは蛇や鳥のそれ以外の微妙な現実について、忘れて暮らすことができる。同じように、われわれは、地球上にも生きる他の国民や民族について、つねに濃^{こま}やかな理解を示すほど暇でもなければ、また強い精神力を持つているわけでもない。そこで、エスニック・ジョークから高級な文化論にいたるまで、わかりやすい一面的な説明を聞くと、それに飛びつくことになるのだろう。

1、逆に自分自身について、固定観念を持つたり、自分の属する国民や民族に文化的レッテルを張るたがる性癖は、一見わかりにくい心理のようにみえる。しかし、これもじつは、人生を安易かつ簡単に生きるための、怠^いけ者の知恵だと見ることもできる。というのは、この人生には あ のような一面があつて、ひとはそれぞれ自分で決めた役を演じ、そのことによって心を安らげることができからである。

2、「男らしさ」という言葉があつて、かつての男たちは、どこの国でも男らしく生き、男らしく行動するように教育されてきた。すると、かりに人生の悲しい事件にぶつかったとき、ひとは男らしさという役を演

じることによって、それだけで悲しみに耐えることができる。親から習ったり、本で読んだ男らしい人物のことを思い浮かべて、こういうときにはどういう顔をして、どういうひと言を口にすればいいかを考える。そして、それを身をもって再現することによって、無意識のうちに一種のヒーローを演じて自分を励ますことができる。複雑な人生のそれぞれの局面の中で、ひとつひとつの行動を決めていくのは、だれにとっても簡単なことではない。その場合、もしわれわれが日本人らしさとか、日本の文化的伝統といった簡単な観念を持っていると、それを演じることによって自分の進路を簡単に選べるにちがいない。歴史を学び、あるいは伝説のなかの英雄物語を読み、もつとも日本人らしい人間はこういうときどう行動するだろうかと考えると、とくに危機に臨んだような場合に強くなれるのである。

そういう意味で、文化的な固定観念とか、民族性についての先入見は、国家が^③フン争に処するうえでときに役に立つこともある。しかしこの場合、注意しなければならないのは、とかく問題の「らしさ」の持つ多様性を忘れて、その一面だけを安易に飲み込む危険があることだろう。じつさい、男らしさといつても、考えてみれば、ずいぶん多様な側面を含んでいるはずであって、あるひとは男らしさといえば腕力が強く、決断力があつて、大まかに行動する人間のことを思い浮かべるかもしれない。しかし現実には、男は女性よりもはるかに小さなことが気になり、人間関係のこじれにこだわり、よくいえば^④いであり、悪くいえば感傷的になる性質も持っている。男らしく振る舞うのは結構だとしても、この二つの側面のどちらを選ぶかで、われわれの行動はまったく

違ってくるはずである。そして、もしひとが正確な目で事実を分析しないで、早飲み込みにひとつの先入見にとらわれれば、生き方はたちまちまちがった方向に固定されてしまうことになるだろう。

考えてみると、われわれは自分がある仕方で認識するが、じつは、その自己認識がまた自己の実体をつくるという側面を持っている。人間は、生きている自分を見つめて自分のイメージをつくるだけではなくて、いつの間にか自分でつくったイメージに合わせて、逆に現実を生き始めてしまうという性質を持っている。文化論についても同じことで、もし誤った民族性のイメージをつくりあげてしまうと、その後の行動のなかでこのイメージは補強され、増幅され、私たちを思いがけない方向に引っ張っていくことになる。文化論^{II}というのは、けつしてたんなる事実の認識であるだけではなくて、じつは行動の規範であり、またひと回りして認識の枠組みにもなるという、恐ろしい事実を見つめておかなければならないだろう。

^③、男らしさなどといういわば生理的、自然的な性格とくらべたとき、ひとつの社会の文化は格段に複雑であり、多様であつて、それだけにその認識は^⑤Cになりがちである。長い歴史のなかで無数の個人が集まって、半ば^⑥うのうちにつくりあげてきた^⑦Dな性格、あるいは生活の様式が文化というものである。したがって、ひとつの文化について考えるにしても、その歴史のなかのどの時点に焦点を当てるか、あるいは多様な広がりの中の一点を強調するかによって、まったく違ったイメージが浮かびあがってくる。それだけに、文化および民族性のイメージを考えるにつけては、われわれは特別に慎重であり、焦点の選び方に注意深くあらねばならないはずである。

(山崎正和『日本文化と個人主義』より)

問一 傍線部①～③のカタカナ部分に当たる漢字と同じ漢字を使用するものはどれか。次の各群の1～4からそれぞれ一つ選べ。

- | | | | | | | | | |
|---|---|-------|---|-------|---|-------|---|-------|
| ① | 1 | ハク利多売 | 2 | ハク学多才 | 3 | 事態緊バク | 4 | 無断外ハク |
| ② | 1 | コ舞激励 | 2 | コ大妄想 | 3 | 解コ通知 | 4 | 在コ管理 |
| ③ | 1 | 火山フン火 | 2 | 孤軍フン闘 | 3 | フン飾決算 | 4 | フン失注意 |

- ①は解答欄(1)にマークすること
- ②は解答欄(2)にマークすること
- ③は解答欄(3)にマークすること

問二 空欄 1 へ 3 に入るもつとも適切な語はどれか。次の1～4からそれぞれ一つ選べ。

- 1 すなわち
- 2 しかも
- 3 これにたいして
- 4 たとえば

- | | |
|---|-----------------|
| 1 | は解答欄(4)にマークすること |
| 2 | は解答欄(5)にマークすること |
| 3 | は解答欄(6)にマークすること |

問三 空欄 A へ D に入るもつとも適切な語はどれか。次の1～4からそれぞれ一つ選べ。

- 1 恣意的
- 2 集合的
- 3 感情的
- 4 典型的

- | | |
|---|------------------|
| A | は解答欄(7)にマークすること |
| B | は解答欄(8)にマークすること |
| C | は解答欄(9)にマークすること |
| D | は解答欄(10)にマークすること |

問四 傍線部Iの「怠け者」と類似した内容をあらわしているものはどれか。次の1～4から一つ選べ。

- 1 男らしく生き、男らしく行動しようとする人たち
- 2 レッテル張りに生きがいを見出している人たち
- 3 集中力に乏しく仕事の長続きしない人たち
- 4 物事を精密に考えることの苦手な人たち

解答欄(11)にマークすること

問五 空欄 に入るもつとも適切な語はどれか。次の1～4からそれぞれ一つ選べ。

あ	1 小説	2 芝居	3 舞踏	4 団体競技
い	1 小心	2 臆病	3 繊細	4 慎重
う	1 諦観	2 希望	3 妥協	4 無意識

は解答欄(12)にマークすること

は解答欄(13)にマークすること

は解答欄(14)にマークすること

問六 傍線部Ⅱの内容と合致していないものはどれか。もつとも適切なものを次の1～4から一つ選べ。

- 1 事実から生み出されたはずの文化論が、今度は事実を正確に分析しない原因となってしまう。
- 2 文化論が単なる論を超えて、人間や民族の歴史を決定づける運命的な力を持つてしまう。
- 3 文化論の持つ一面性が、人間の行動や物の見方にさまざまな影響を与えてしまう。
- 4 既存の文化論に合わせて、しばしば人間は安易に考え方や行動を決めてしまう。

解答欄(15)にマークすること

問七 問題文の内容と合致するものはどれか。次の1～4から一つ選べ。

- 1 固定観念や先入見が複雑な人生を生きる上で役に立つこともある。
- 2 「らしさ」の多様性に目を向けないことが日本の悪しき点である。
- 3 世界平和やより良い人生のためには文化論に囚われてはならない。
- 4 エスニック・ジョークも文化論も一面的で現実を反映していない。

解答欄(16)にマークすること

問八 問題文のタイトルとしてもつとも適切なものはどれか。次の1～4から一つ選べ。

- 1 エスニック・ジョークと民族性
- 2 民族性というレッテル張り
- 3 文化論の落とし穴
- 4 男らしさの文化論

解答欄(17)にマークすること

二、次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

「本で読んだこと、感想などを並べただけでは、論文とは言えません。どんな小さなことでもいい、発見がないといけません。自分の考えが必要です」

そう述べたのはX教授である。某女子大学大学院、修士論文中間発表の席である。二十年も前のことで、時刻にかかっているが、実名はさけることにする。

学生たちはきよとんとしている。その沈黙を破ったのがY教授。

「それは少し違うのではないですか。文学研究では、おいそれと発見があるわけがないから、発見のないのは論文でないと決めつけられては困ります。「A」だってりっぱな研究で、論文になります」

Y教授はX教授より学生に人気があった。こういう甘いことを考えているところに、人気の秘密があるのかもしれない。X教授は、場違いなことを言った人間のように学生から見られているのを感じて黙した^{もく}。ほかに三人の教授が同席していたが、この問題については何も言わなかったが、Y教授の味方であることは学生たちにもわかった。

これは一例にすぎないが、日本中の大学院文学研究科で、なされるべき議論である。文学の論文とは何か、明治以来、はっきりしたことがわからないまま、「論文」を書いて卒業した。それが「B」にもならないと

いう反省が起こって、卒業論文を廃する外国文学科が現れ、またたくまに広がった。良心的だったと言ってよい。

大学院はそもいかず修士論文はいまも必須である。それで、論文ならざる論文を作成して修士学位を得る。やがましく言えば世を欺く^{あまご}ことである。「C」大学の人文学部門では、これに答える用意が必要である。その意識すらないようでは独立文化社会の大学とは言えないであろう。明治この方、これに悩んだ学者、教師、学生がなかったというのは、つまり、日本の学術、とくに文科系の学問が後進国の体制を脱していなかったのを物語る。「D」ということとなる。

五十年前、高等教育を受ける者は同世代人口の一割くらいの時代、世人は大学は「E」、深遠^{しんえん}な学術探究が行われるところと信じるのは容易であった。見ぬもの^Aの清し、である。いまは二人に一人が大学に行く時代である。大学は就職のためと割り切るのが少しもおかしくなくなっている。学問とか研究などというのはことばとしても影がうすい。卒業論文がどんなものか、などはじめから関心がない。それで、論文はますます夕落^①する。

学生だけの問題ではない。学者、教師にとっても、論文がいかなるものか、それを実際に書いているのかという検討は不可欠である。

他分野のことはよくわからないから、事情のわかっている文学関係、とりわけ外国文学科に限って言えば、本格的論文を書いている研究者は例外的である。たいていが、他人の文献を読み、その^②手見^②に自分の感想をまじえてカクテル論文を書いてきた。借り物の酒をブレンドして酒をつくり、それを論文と考えるなら、自らも欺き世

間を欺く仕事ということになる。そうなるのではないか、という反省力さえ欠いた人間たちが学者面ツラをしている。本に書いてあること、人の言ったことをいくらたくさん集めてみてもそれは作文であって論文ではない。論文というからには、テーマがなくてはいけない。それを他から借りたり盗んだりするので、はじめから問題にならないのである。自然科学でも指導教授からテーマをもらう風習があるらしいが、その結果は論文にはならない。文科系の論文はもつとひどい。テーマなしで論文を書くこととする。教師が学生にテーマを与えるのは異例である。テーマが生まれるまえに、「G」が必要である。これがしっかりしていれば、テーマは容易に定まる。ひとつではなくいくつも生まれるかもしれない。この「G」のことを、自然科学研究者たちは「仮説」と呼んでいる。仮説なきテーマは本当のテーマではなく、しつかりしたテーマのないのは要するに作文である。地方のある国立の自然科学系の研究機キコウに評判の所長がいて、大いに研究活動を刺激、ソク進④していると言われた。

職員トイレで、隣の所員とならび立つと、所長は決まって、
「何か新しいことはありますか。おもしろいことは？」

と挨拶をした。ニュースを聞いているのではない。新しいアイデアは出てこないかと聞いているのである。そのアイデアがふくらむと仮説になる。仮説を実証すれば論文というわけである。

外国文学研究において、この、アイデア、仮説、論文の過程を踏んだ唯一の論文は夏目漱石の『文学論』（一九〇七年）である。ほかの学者たちは論文と称して作文を書いているのに、これはいかにもユニークだ。

漱石はロンドン留学中、遠縁の池田菊苗きくなえ（化学者Ⅱ一八六四〜一九三六）との談話からヒントを得て、つまりアイデアをつかみ、文学とは何か、という仮説を立て、それを心理学、社会学の観点から追究するテーマにもとづいて書かれたのが『文学論』であった。実に世界的業績で、当時、こういう方法で文学の本質を究明しようとした試みは皆無であった。もし英文で刊行されていたら、世界的反響を巻き起こしたのは間違いない。いま漱石の文名はいよいよ名高いけれども、その文学の研究には無関心であると言つてよい。この大業は現在に至るまでほとんど開かれざる大著でありつづけている。

世界的と言うにはわけがある。『文学論』が出てから十七年後に、イギリスの文学理論学者I・A・リチャーズの『文芸批評の原理』が出版された。新しい文学研究として世界的影響を与えることになったが、方法は漱石に酷似ミしている。漱石が心理学と社会学の視点から文学へアプローチしたのに対して、リチャーズは、心理学と生マ理学の見地から文学現象を説明しようとした。どちらも心理学が共通している。漱石はリチャーズより早い先覚者で、どこの国の学者もなしえなかったことをやってのけたのであるが、砂漠に播まかれた種子のように、ついに芽を出すことがなかった。ことに英文学関係の人たちで、これを読みぬいた人がどれくらいあるか疑問である。

文学研究の世界では、ずっと長い間「ミノ虫論文」を作ることしか知らなかった。ミノ虫が枯れ葉や枝を集めてきて自分の巣をつくるように、あの本、この本、あの論文、この論文などいろいろのものをかき集めて論文を

つくる。素地^Xが丸みえでいかにも借りものであることがはっきりしている。けれども、文科系の論文の実に多くがこのミノ虫論文であったし、いまも変わっていない。

これより一步進んだのが、「マユ型論文」である。蚕^{かいこ}は青い桑の葉を食べて成長するが、自らの吐く糸は、桑の葉の青さを捨てて純白で、白いマユをつくる。それと同じように、諸著^Y・諸説を消化、理解、完全にわがものとして、自分の世界をつくる。もちろんミノ虫論文より優れていると考えられる。

しかし、マユ型論文もお模倣的である点で、ミノ虫型に通じるところがある。

これに対して「大工型」ともいうべき論文がある。もちろん材料を用いるが、あらかじめ設計図、あるいはそれに類する見取り図が、少なくとも頭の中にあつて家をつくる。近代的建築なら、設計はきわめて重要なものになる。そこまではいなくても、論文づくりに当たっては、前もって目論見^{もくろみ}、デザインが存在しなくてはいい仕事はできない。

その設計が、論文のもとになる仮説にほかならない。仮説のない論文は、ミノ虫論文、蚕のマユ型論文にはなっても、決して独創的価値をもつたものにはならない。

はじめのX教授も発見など言うのではなく仮説がなくてはいけない、と言えばよかつたのである。それでも納得^Zされないのは同じだが――。

〈外山滋比古『「忘れる」力』より〉

問一 空欄「A」に入るもつとも適当な語はどれか。次の1～4から一つ選べ。

- 1 学習
- 2 鑑賞
- 3 調査
- 4 創作

解答欄(18)にマークすること

問二 空欄「B」に入るもつとも適当な語はどれか。次の1～4から一つ選べ。

- 1 羊頭狗肉
- 2 竜頭蛇尾
- 3 漁夫の利
- 4 犬馬之勞

解答欄(19)にマークすること

問三 空欄「C」に入るもつとも適当な一文はどれか。次の1～4から一つ選べ。

- 1 論文というのは理屈である。
- 2 論文というのは偽証である。
- 3 論文というのは訴訟である。
- 4 論文というのは偽装である。

解答欄(20)にマークすること

問四 空欄「D」に入るもつとも適当な皮肉表現はどれか。次の1～4から一つ選べ。

- 1 論文ならざる論文の作成を禁止するのが良識
- 2 誰かが声を上げて、先進国への仲間入りを目指すのが良識
- 3 お互い恥ずかしいことだから、なるべく触れないのが良識
- 4 後進国の体制であったことを強く猛省するのが良識

解答欄(21)にマークすること

問五 空欄「E」に入るもつとも適当な語はどれか。次の1～4から一つ選べ。

- 1 金字塔
- 2 不要な世界
- 3 象牙の塔
- 4 路傍の石

解答欄(22)にマークすること

問六 傍線部Aと同じ意味で用いることのできる諺はどれか。次の1～4から一つ選べ。

- 1 知らぬが仏
- 2 暖簾に腕押し
- 3 触らぬ神に祟りなし
- 4 長いものには巻かれる

解答欄(23)にマークすること

問七 傍線部①～④のカタカナ部分に当たる漢字と同じ漢字を使用するものはどれか。次の各群の1～4からそれぞれ一つ選べ。

- | | | | | |
|---|-----------|----------|----------|----------|
| ① | 1 ダ菓子 | 2 ダ天使 | 3 ダ眠を食る | 4 ダ当性 |
| ② | 1 血糖チ | 2 幼子園 | 3 子識人 | 4 自子体 |
| ③ | 1 コウ目を並べる | 2 コウ歌の斉唱 | 3 コウ園の散歩 | 4 建物のコウ造 |
| ④ | 1 快ソク電車 | 2 返却の催ソク | 3 一時の休ソク | 4 身体ソク定 |

①は解答欄(24)にマークすること

②は解答欄(25)にマークすること

- ③は解答欄(26)にマークすること
- ④は解答欄(27)にマークすること

問八 空欄「G」に入るもつとも適当なものはどれか。次の1～4から一つ選べ。

- 1 ブレンド的論文思考
- 2 感想的意見思考
- 3 文献的確認思考
- 4 予想的創造思考

解答欄(28)にマークすること

問九 波線部Xの意味としてもつとも適切なものはどれか。次の1～4から一つ選べ。

- 1 自分の考えと異なっている、ひとまず文献に従ったことがはっきりわかる。
- 2 他人の考えが、自分の考えであるかのように利用されていることがはっきりわかる。
- 3 文献と文献の意見をつきあわせ勝手な結論を得たことがはっきりわかる。
- 4 文献の引用ばかりで、自分の意見を述べることを避ける姿勢がはっきりわかる。

解答欄(29)にマークすること

問十 波線部Yの意味としてもつとも適切なものはどれか。次の1～4から一つ選べ。

- 1 諸著・諸説を十分に理解して、自他の意見が見分けられないようにする。
- 2 諸著・諸説を十分に理解することで、自身の意見であるかのように装う。
- 3 諸著・諸説を十分に理解した先に、考えられる意見を展開する。
- 4 諸著・諸説を十分に理解することで、独善的な批判を加える。

解答欄(30)にマークすること

問十一 波線部Zのように筆者が述べる理由としてもつとも適切なものはどれか。次の1～4から一つ選べ。

- 1 大学院文学研究科では、X教授の意見はいつもおかしいと評価が定まってしまうから。
- 2 文学研究に新たな発見などそうありはしないので、研究方法など論じても仕方ないから。
- 3 正しい意見を述べても、それが正当に評価されるような環境になっていないから。
- 4 意見の正否が問われているのではなく、X教授の発言したことが問題にされているから。

解答欄(31)にマークすること

問十二 本文の内容と合致しないものはどれか。次の1～4から一つ選べ。

- 1 読んだ本の感想ではなく、小さくても自身の発見や意見がないと論文と呼ぶことはできない。
- 2 夏目漱石は文学とは何かという仮説を立て、心理学や生理学の観点から『文学論』を書いた。
- 3 大工が設計図や見取り図に基づいて家を建てるように、論文も目論見もくろみやデザインを要する。
- 4 仮説のない論文はミノ虫論文、蚕のマユ型論文にはなっても、独創的価値をもつ論文にはならない。

解答欄(32)にマークすること

以上で問題は終わりです。

国語 一般入試 I 期

大問	解答番号	解答例	配点	大問	解答番号	解答例	配点	
一	1	1	3	二	18	2	3	
	2	2	3		19	1	3	
	3	4	3		20	4	3	
	4	3	3		21	3	3	
	5	4	3		22	3	3	
	6	2	3		23	1	3	
	7	3	3		24	2	3	
	8	4	3		25	3	3	
	9	1	3		26	4	3	
	10	2	3		27	2	3	
	11	4	3		28	4	3	
	12	2	3		29	2	3	
	13	3	3		30	3	3	
	14	4	3		31	3	3	
	15	2	4		32	2	4	
	16	1	4					
	17	3	4					